

第 3 回検討会議で出された意見と対応方向

1 理解の促進

意見（木村構成員）	方策関係部分	対応方向
・ 教育について、単にアイヌを取り上げて進めるだけがいいことではない。アイヌであることを隠している人がたくさんいることを先生方には理解してもらいたい。教育を積極的にやってほしいともいえないが、どうしたらいいか考えてもらいたい。	第 3 推進施策 1 理解の促進	アイヌへの理解に向けた教育の充実について、方策に記載するとともに、児童、生徒など若年層に向けた理解促進について、検討してまいります。

意見（落合座長）	方策関係部分	対応方向
・ 苫小牧などの小中学校は、ウポポイや二風谷に近く行きやすいが、遠い小中学校でどういう対応が可能かということも検討すべき。	第 3 推進施策 1 理解の促進	オンライン、リモートでのウポポイの観覧など、遠隔地におけるウポポイの活用方法について、検討を進めてまいります。

2 生活の向上

意見（木村構成員）	方策関係部分	対応方向
・ （アイヌ高等学校等進学奨励費(大学貸付)について、)実態調査により、大学進学率が和人と比べて差があるという結果が出ている点について、どうしたらいいか議論して反映してもらいたい。	第 3 推進施策 2 生活の向上	アイヌの人たちの教育の充実について方策に記載します。 なお、大学貸付について、今年 9 月に実施した道内各地域のアイヌの人たちとの意見交換会では、学生支援機構の給付型奨学金を知ってもらえれば頑張れるのではないかと、制度周知が行き届いていない、相談体制の整備が必要などの意見もありました。

		生活向上施策は、アイヌの人たちの生活意識や環境変化を踏まえ、取り組んでまいります。
--	--	---

意見（大野構成員）	方策関係部分	対応方向
生活向上の施策を考えると、皆、物価高で賃金が伸びないだとか色々な苦しい中で国民生活が行われている。その中で、<u>雇用の安定、生活の安定などは、全国民共通の課題</u>。特にアイヌの人たちを対象にした生活の向上面で施策の方向性を考える上では、大学の進学率が低い理由や、生活保護の受給割合が1.3倍と高い理由、例えば年齢階層で高齢層が高いのかなど、詳しく掘り下げて点検をしてほしい。<u>これは必要、というものを出さない限り、逆にアイヌの人たちに対する国民なり道民の目がきつくなってくる。</u>	第3 推進施策 2 生活の向上	アイヌ生活実態調査によると、アイヌの生活保護世帯について、世帯類型別（高齢者世帯、母子世帯、傷病・障害者世帯、その他世帯）にみると、高齢者世帯が 71.5%と最も多く、その他の世帯についてはアイヌ居住市町村全体よりも割合が低くなっています。 生活向上施策は、アイヌの人たちの生活意識や環境変化を踏まえ、取り組んでまいります。
意見（落合座長）		
<u>生活向上施策は、いわゆる格差是正措置、アフターマティブ・アクション</u>。そことアイヌ民族であることと結びつけるのは本来的には難しいところがある。いわゆる<u>先住民族政策という形で明確に説明しにくい危険がある</u>。（上記大野構成員の指摘は）<u>その説明を十分にしないと、アイヌ民族に対するバックラッシュのおそれがある</u>という趣旨だと思う。そこは重要な指摘だと思うので、丁寧な点検と説明と施策の立案をお願いしていきたい。		

3 文化の振興

4 地域、産業及び観光の振興

意見（木村構成員）	方策関係部分	対応方向
観光について道に頑張ってもらいたい。<u>観光は道内各地との連携が大事</u>。観光は特色があるほど、足を運びたくなるというところがある。	第3 推進施策 3 文化の振興 4 地域・産業及び観光の振興	道内各地との連携について、これまでアイヌ文化ゆかりの地と観光資源を組み合わせた周遊モデルコースの情報発信を行ってきていますが、ご意見を踏まえ、アイヌ文化に関する学習・体験の場を充実させること、道内各地にあるアイヌ関連施設と観光資源等の連携を進めることについて、方策に記載するとともに、今後の施策の推進に当たっての参考とさせていただきます。
意見（中村構成員） 観光機構としては、音楽、工芸、食といったものの実体験も含めて、体験していくという研修会を行っている。<u>体験は興味を惹きつけるものであり重要</u>。		

意見（小川構成員）	方策関係部分	対応方向
- 産業の振興には、伝統工芸以外も入るのか不明確。 - 木彫りの伝統的な技術を持っているのは、昔、機動訓練を経験した人たち。また昔の職業訓練校のような制度を考えたらいいのではないか。	第3 推進施策 4 地域・産業及び観光の振興	産業の振興は、アイヌ事業者の経営講習会や個別指導を実施するアイヌ中小企業経営改善指導事業などがあり、伝統工芸に限られるものではありません。 機動職業訓練は、求職者の方などを対象に、再就職の支援を目的に必要な知識等を習得してもらうために行われる職業訓練です。 現在は、パソコンや介護等の訓練コースが実施されていますが、アイヌ文化の担い手育成という観点では行われていません。 また、職業訓練を含む就労促進に係る施策につ
意見（落合座長） （上記小川構成員からの提案は、）4番の地域、産業及び観光の振興の、産業振興と、2の生活向上の雇用の安定に重複が見受けられるともいえる。<u>産業の振興とは何なのかをもう少し明確にして、恐らく機動訓練は、本来的には生活向上の雇用の安定の中に入っていたはずだが、この位置づけははっきりさせて棲み分けをしっかりとっていくのが重要</u>。		

意見（木村構成員）		いては「2生活の向上」、産業振興に係る施策については「4地域、産業及び観光の振興」に位置づけています。
・ 機動訓練は、冬場の失業対策ということもあって行っていたが、職業訓練なので就職しなければだめで、自営業は就職にならないことが問題で辞めた。その代わり、今は交付金事業で担い手育成事業ということでやっている。		

5 多様な文化との交流促進

意見（小川構成員）	方策関係部分	対応方向
・ <u>国際交流の促進について間口を広げるような取組があったらいい。</u>	第3 推進施策 5 多様な文化との交流促進	ご意見については、今後の施策の推進に当たっての参考とさせていただきます。
意見（落合座長）		
・ 若年層において海外先住民族に対する関心があまり高くない一方で、それぞれの地域で様々な課題を抱えるアイヌの皆さんが、交付金を活用して海外に行き、海外の先行事例を参考としたいと考えたときに柔軟に渡航ができない、又は海外先住民族を受け入れようとするときにおもてなしの材料がないという課題をきいているが、そういう交流のために税金を使うことに対するアイヌではない人たちの反発というのも念頭に置く必要がある。		
意見（木村構成員）		
・ <u>小さいうちから、自分はアイヌであるということにアイデンティティを持ってもらえると、物事は変わってくる。</u> （国際交流によって）自分たちが置かれている立場がどうなのかということもわかってほしい。そういう制度もどんどん作ってもらいたい。		

6 その他

意見（大野構成員）	方策関係部分	対応方向
・（アイヌ民族文化財団の事業について）重点的に取り組んでいる事業や他との連携を見ても、そこまでボリュームのある仕事、お金がかかる内容に見えない。 ・ <u>道は、財団に何をやってもらうために補助金を出しているのか、事務費含めお金がかかることを整理して説明いただきたい。</u>	－	アイヌ民族文化財団については、アイヌ施策推進法で定める指定法人として、同法第 21 条で定めるアイヌ文化振興に関する業務等を行うこととされています。 道としては、同財団による事業の実施について、事前及び事後の検証を行うなど、より効率的な執行を行うよう検討してまいります。
意見（落合座長）		
・（アイヌ民族文化財団の事業について）<u>道は、法律で定められてしまっているから、国にお付き合いせざるを得ない部分があるという事もわかる形にした上で、必要なものに効果的にお金を捻出していることが明らかになる記載をしてもらうのがいい。</u>		